

第 13 回巨大津波災害に関する合同研究集会を開催しました (2023/12/7,8)

テーマ：津波研究，合同集会，被災地巡検
会場：災害科学国際研究所 多目的ホールなど

2023 年 12 月 7 日（木），12 月 8 日（金）に，第 13 回巨大津波災害に関する合同研究集会を開催しました。本研究集会は，津波災害に関する研究に取り組む多様な分野の研究者や学生による学術的な交流を通じて，津波研究の発展と防災・減災に資することを目的としており，東日本大震災発生後から毎年開催されています。

今回は，越村俊一教授（災害ジオインフォマティクス研究分野）を実行委員長として東北大学災害科学国際研究所が幹事校となり，現地会場とオンライン会議システムを併用したハイブリット方式で開催しました。また，従来の口頭発表セッションに加えて，新たな取り組みとして e-Poster/e-Poster Flash Talk セッションを設けたことで，大学院生，若手研究者を含む多くの研究者から 45 件（口頭発表：29 件，e-Poster：16 件）の発表に繋がりました。その結果，現地参加者は 70 名，オンライン接続者は約 30 名以上であり，約 100 名の参加となりました。今村文彦教授（津波工学研究分野）が開会の挨拶を行い，2 日間の発表会とその後の現地巡検ツアーが実施されました。研究者や技術者が時間と場所を共有する自由闊達な議論の場により，研究者や技術者間，さらに行政や産業界との新たな連携を育むことができました。

1 日目のプログラムの終了後，佐藤翔輔准教授（防災社会推進分野）が幹事となり，本学みどり食堂にて参加者有志で懇親会が行われました。総勢 53 名の参加があり，宮城の地物・地酒に舌鼓をうつとともに，研究発表での議論のつづきを楽しく行いました。余興として，若木望氏（津波工学研究室・修士 1 年）が所属する本学能楽部から能舞を披露してもらい，会場は大いに盛り上がりました。

2 日目のプログラム終了後，鎌田健一特任教授（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）の企画により 2011 年東北津波の現地巡検ツアーが実施され，計 26 名の参加がありました。ツアーコースとして，東日本大震災で大きな津波被害を受けたキリンビール工場と，震災遺構の荒浜小学校が設定されており，菅原大助准教授（津波工学研究分野）が随行し，被災状況や専門知見からの解説を行いました。移動の車中では，津波被害の概要説明に加え，仙台湾の津波数値計算の再現動画が放映されました。さらに，荒浜小学校において，周辺地層の剥ぎ取り標本を示しながら津波堆積物に関する解説が行われ，12 年 9 ヶ月経過した東日本大震災に関する参加者の理解が深まりました。

文責：越村俊一（災害ジオインフォマティクス研究分野）
佐藤翔輔（防災社会推進分野）
鎌田健一（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）
菅原大助（津波工学研究分野）
今村文彦（津波工学研究分野）

（次頁へつづく）



熱心な発表会場での様子



今回は、ポスターセッションも開催



懇親会での様子。初めて余興で能が披露されました。



仙台沿岸域への巡検へ出発